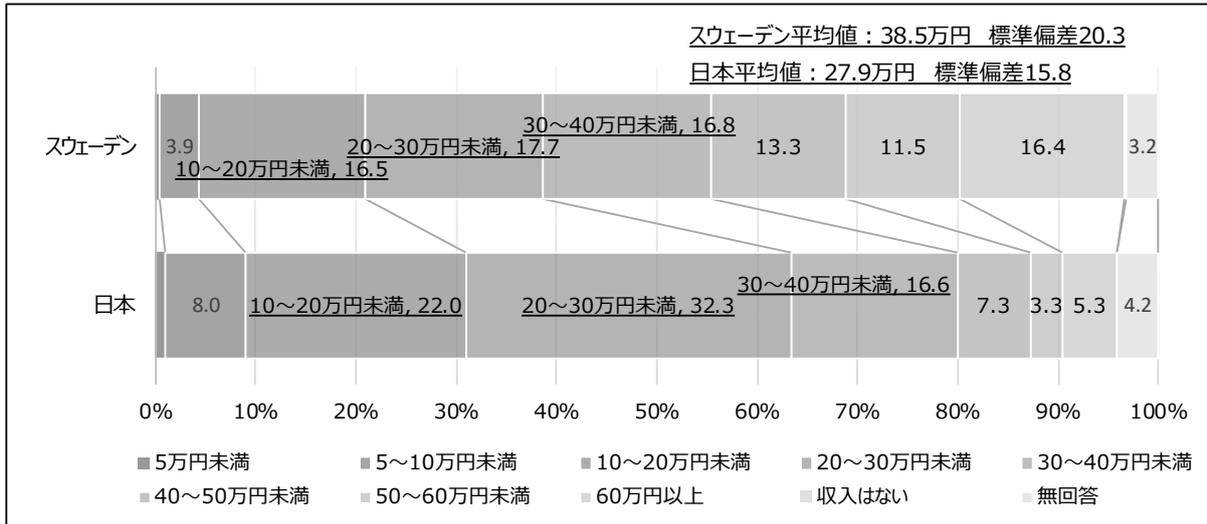


5. 高齢者の収入と経済事情

「収入の分布」(Q11)について、前期高齢者をみると、スウェーデンの収入月額平均値は月額38.5万円、標準偏差は20.3、日本の収入月額平均値は27.9万円、標準偏差は15.8である。

スウェーデンの前期高齢者は日本の前期高齢者より、10.6万円ほど収入が高く、また標準偏差からみるとスウェーデンの前期高齢者の収入額の方にばらつきがみられる。日本の前期高齢者では月額30万円未満(年額360万円未満)の人が、全体の63.4%を占める(図表5-1)。

図表5-1 前期高齢者の収入月額

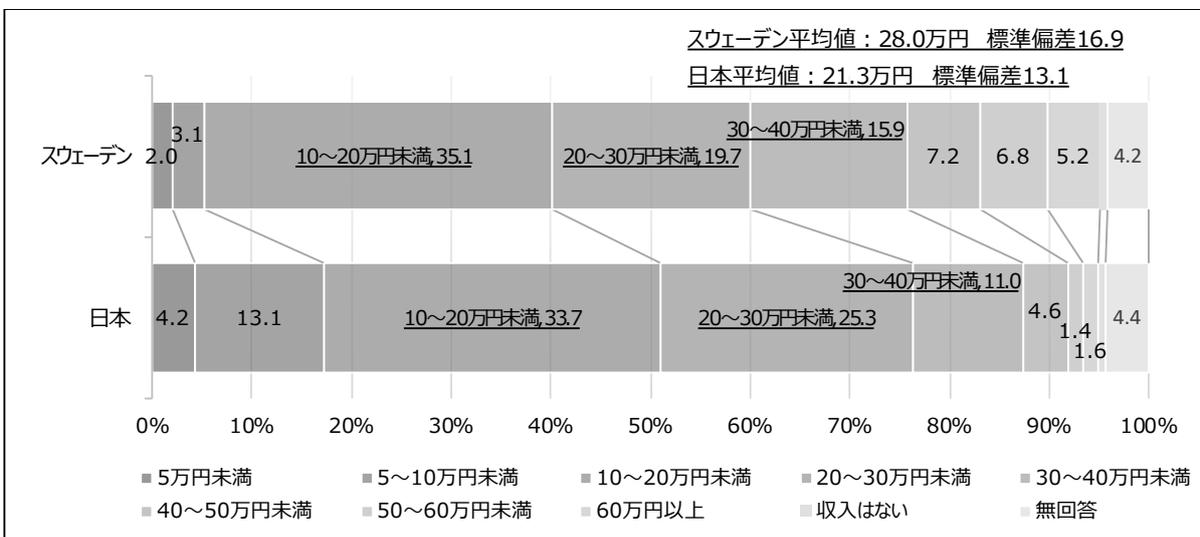


Q11 あなたの収入をすべて合計すると、税込みで1か月当たりの平均額(ボーナスがある場合は、それを含めて平均した額)はおおよそいくらになりますか。(SA)

後期高齢者の収入では、スウェーデンの収入月額平均値は月額28.0万円、標準偏差は16.9、日本の収入月額平均値は21.3万円、標準偏差は13.1である。スウェーデンの後期高齢者は、日本の前期高齢者より6.7万円ほど収入が高く、また標準偏差からみるとスウェーデンの後期高齢者の収入額の方にばらつきがみられる。

日本の後期高齢者では、月額30万円(年額360万円)未満の人が全体の76.3%を占める。また、月額10万円未満の人が17.3%いることも注目される(図表5-2)。

図表5-2 後期高齢者の収入月額



Q11 あなたの収入をすべて合計すると、税込みで1か月当たりの平均額(ボーナスがある場合は、それを含めて平均した額)はおおよそいくらになりますか。(SA)

「経済的困窮を感じる人」(Q12)について、日本で経済的に生活に困っている高齢者の割合はスウェーデンの2倍を超えている。スウェーデンで生活に「困っている」(「まあ困っている」を含む)高齢者は、前期高齢者が14.8%、後期高齢者が13.3%であった。

一方、日本では前期高齢者の35.9%、後期高齢者の31.3%が生活に「困っている」と回答している。(図表5-3)。

図表5-3 経済的困窮を感じる人

		(%)				
		困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない	不明・無回答
スウェーデン	65～74歳 (n=684)	2.3	12.4	38.9	45.2	1.2
		14.8		84.1		1.2
	75歳以上 (n=542)	2.0	11.3	47.4	36.2	3.1
		13.3		83.6		3.1
日本	65～74歳 (n=674)	8.6	27.3	30.6	30.7	2.8
		35.9		61.3		2.8
	75歳以上 (n=498)	7.4	23.9	34.3	31.3	3.0
		31.3		65.7		3.0

Q12 あなたは、経済的な意味で、日々の暮らしに困ることがありますか。(SA)

それでは、両国の高齢者は50歳代までに老後の経済生活の準備をどのようにしてきたのだろうか(Q13)。

スウェーデンでは老後の社会保障が充実しているため、自分で老後の準備をする必要がないといわれた時代もあったが、現在はそのようなことはない。「特に何もしていない人」は前期高齢者の25.4%、後期高齢者の31.0%であった。前期高齢者では73.5%、後期高齢者では64.9%の人が何らかの備えをしていると回答している。数字だけをみると、日本の高齢者も同レベルであった。

日本では、「特に何もしていない」という回答者は前期高齢者で26.0%、後期高齢者で29.1%であった。また、日本でも前期高齢者の70.9%、後期高齢者の68.3%が、老後のために何らかの備えをしてきたと回答している(図表5-4)。

次に、どのような準備をしてきたのかについて、具体的な内容を比較する。

スウェーデンでは、「預貯金」(前期高齢者41.7%、後期高齢者38.0%)、「個人年金への加入」(前期高齢者56.4%、後期高齢者35.1%)、「債権・株式の保有、投資信託」(前期高齢者32.2%、後期高齢者30.8%)を通じた準備が行われている。

一方、日本では、「預貯金」(前期高齢者54.9%、後期高齢者54.0%)に偏る傾向がみられる。スウェーデンに多く見られる「個人年金への加入」(前期高齢者26.3%、後期高齢者18.1%)もスウェーデンの約半分、「債権・株式の保有、投資信託」(前期高齢者13.8%、後期高齢者12.0%)ではスウェーデンの3分の1ほどしかみられない(図表5-4)。

図表5-4 老後の経済生活の準備

(%)

		預貯金	個人年金への加入	債券・株式の保有、投資信託	不動産取得（賃貸収入を得るための不動産の取得等）	貴金属の保有（金、宝石等）	老後も働いて収入が得られるように職業能力を高める	その他
スウェーデン	65～74歳(n=684)	41.7	56.4	32.2	4.2	0.9	1.5	2.9
	75歳以上(n=542)	38.0	35.1	30.8	5.5	0.9	0.9	3.9
日本	65～74歳(n=674)	54.9	26.3	13.8	4.6	0.7	14.2	2.5
	75歳以上(n=498)	54.0	18.1	12.0	4.6	0.8	9.8	4.4

※続き

(%)

		特に何もしていない	不明・無回答	備えをしている（再掲）	延回答数
スウェーデン	65～74歳(n=684)	25.4	1.0	73.5	166.2
	75歳以上(n=542)	31.0	4.1	64.9	150.2
日本	65～74歳(n=674)	26.0	3.1	70.9	146.1
	75歳以上(n=498)	29.1	2.6	68.3	135.5

Q13 あなた（配偶者あるいはパートナーがいる場合はお二人）は、50歳代までに、老後の経済生活に備えて特に何かしていましたか。(MA)

「老後の備え」（Q14）について、日本では5～6割の高齢者が「足りない」と回答し、スウェーデンでは「足りない」という高齢者はわずか1～2割であった。両国では大きな違いがみられる。

スウェーデンでは、前期高齢者の66.5%、後期高齢者の58.1%が老後の備えは「十分だと思う」（「まあ十分」を含む）と回答している。「社会保障で基本的な生活は満たされているので、資産保有の必要性がない」という回答を含めると、さらに高い比率で老後の備えは十分と回答することになる。その一方で、日本の高齢者では、前期高齢者の31.8%、後期高齢者の28.7%が、老後の備えは「足りない」（「やや足りない」を含む）と回答している（図表5-5）。

図表5-5 老後の備えは十分か

(%)

		社会保障で基本的な生活は満たされているので、資産保有の必要性がない	十分だと思う	まあ十分だと思う	やや足りないと思う	まったく足りないと思う	わからない	不明・無回答
スウェーデン	65～74歳(n=684)	3.4	25.6	40.9	12.4	5.6	9.9	2.2
			66.5	18.0				
スウェーデン	75歳以上(n=542)	12.9	20.1	38.0	7.0	2.6	15.7	3.7
			58.1	9.6				
日本	65～74歳(n=674)	0.3	5.0	26.7	31.3	26.9	7.1	2.7
			31.8	58.2				
日本	75歳以上(n=498)	2.2	8.8	29.7	28.7	19.7	8.6	2.2
			38.6	48.4				

Q14 現在の貯蓄や資産は、今後、あなた（配偶者あるいはパートナーがいる場合はお二人）の老後の備えとして十分だと思いますか。(SA)

6. 高齢者と仕事

「収入の伴う仕事の有無」(Q15)について、日本ではスウェーデンの2倍の高齢者が収入を伴う仕事をしている。スウェーデンでは「収入の伴う仕事をしている」前期高齢者は20.2%、後期高齢者は9.8%であった。日本では前期高齢者の43.6%、後期高齢者の15.5%が、収入の伴う仕事をしている(図表6-1)。

図表6-1 収入の伴う仕事の有無

		(%)		
		収入の伴う 仕事はしてい ない	収入の伴う 仕事をしてい る(再掲)	不明・無回 答
スウェーデン	65～74歳(n=684)	75.3	20.2	4.5
	75歳以上(n=542)	81.5	9.8	8.7
日本	65～74歳(n=674)	53.7	43.6	2.7
	75歳以上(n=498)	79.7	15.5	4.8

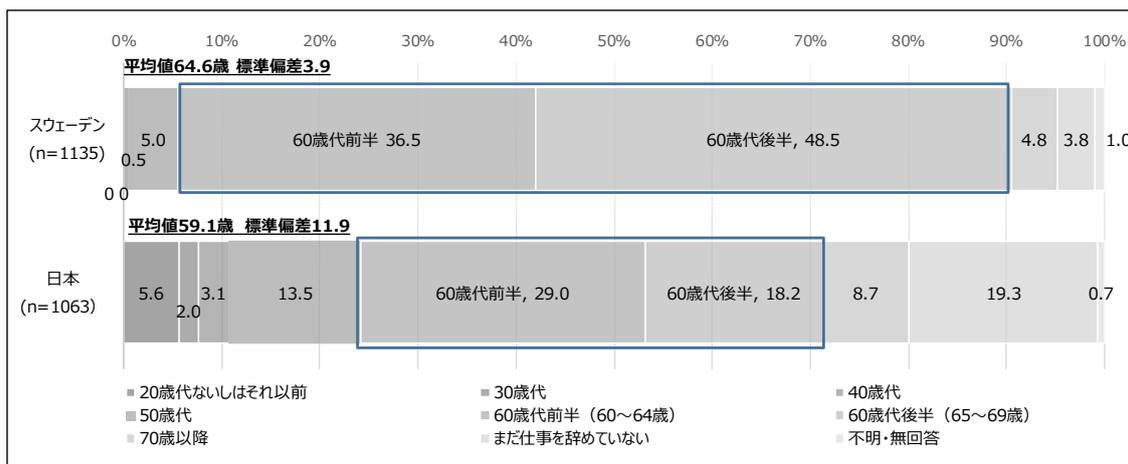
Q15 あなたは、現在、次のような収入の伴う仕事をしていますか。(SA)

「最終的に収入の伴う仕事を辞めた年齢」(Q17)について、最終的に収入を伴う仕事を辞めた年齢の平均値は、スウェーデンが64.6歳、日本が59.1歳で、両国の高齢者には5.5歳の開きがある。また、標準偏差はスウェーデン3.9、日本11.9で、日本はスウェーデンに比べてばらつきがあることが示された。

スウェーデンでは、60歳代後半で退職する人が48.5%で最も多く、次いで60歳代前半が36.5%と続くが、全体の84.9%が60歳代で収入を伴う仕事を辞めている。

日本では、退職年齢が60歳代に集中しているスウェーデンに比べて、ばらつきがある。60歳代前半で退職する人が29.0%で最も多く、60歳代後半が18.2%で続く。日本では、19.3%の人が「まだ仕事を辞めていない」と回答しているが、このグループを含めても、スウェーデンより若い年齢で退職している人が多いようにみえる(図表6-2)。

図表6-2 収入の伴う仕事を辞めた年齢



Q17 あなたが最終的に収入の伴う仕事を辞めたのは何歳のときですか。(SA)

「収入の伴う仕事を続けたい理由」(Q19)について、スウェーデンの高齢者は「仕事が面白い」と回答し、日本の高齢者は収入、老化防止というように、両国では理由が異なっている。

スウェーデンでは、前期高齢者も後期高齢者も、「仕事そのものが面白い、自分の活力になるから」(前期高齢者 41.6%、後期高齢者 41.8%)という回答が最も多かった。一方、日本では、前期高齢者の 50.3%が「収入がほしいから」と回答しており、他の理由を引き離して多い数となっている。後期高齢者では、「老化を防ぐから」(33.0%)という回答が最も多かったが、やはり「収入が欲しいから」(28.7%)も続いている(図表 6-3)。

図表6-3 収入の伴う仕事を続けたい理由

		(%)					
		収入がほしいから	仕事そのものが面白い、自分の活力になるから	仕事を通じて友人や仲間を得ることができるから	働くのは体によいから、老化を防ぐから	その他	不明・無回答
スウェーデン	65～74歳(n=173)	16.8	41.6	0.6	22.5	2.9	15.6
	75歳以上(n=55)	14.5	41.8	1.8	21.8	3.6	16.4
日本	65～74歳(n=312)	50.3	17.0	4.8	25.0	1.9	1.0
	75歳以上(n=94)	28.7	19.1	14.9	33.0	2.1	2.1

Q19 あなたが収入の伴う仕事をしたい(続けたい)と思われるのは主にどのような理由からですか。(SA)

「老後の生活費のまかなわれ方」(Q42)について、スウェーデンでは前期高齢者と後期高齢者ともに多数が、「老後の生活費は、社会保障など公的な援助によってまかなわれるべき」(前期高齢者 70.0%、後期高齢者 56.6%)と回答している。日本でも、スウェーデンより数は少ないものの、前期高齢者の 52.4%、後期高齢者の 48.4%が「老後の生活費は、社会保障など公的な援助によってまかなわれるべき」と回答している。

スウェーデンの高齢者では、「老後の生活費は、社会保障など公的な援助によってまかなわれるべき」という回答は、他国よりも常に高い数値を示してきた。日本の高齢者をみると、この選択肢を選ぶ高齢者が年々増加の傾向にあり、今回調査の結果は、これまでの調査の中で最も高い数値である。前回の第8回調査(2015年)では、「老後の生活費は働けるうちに準備し、家族や公的な援助に頼らないようする」と回答率が拮抗していた(図表 6-4)。

図表6-4 老後の生活費のまかなわれ方

		(%)				
		老後の生活費は、働けるうちに準備し、家族や公的な援助には頼らないようにすべきである	老後の生活費は、家族が面倒をみるべきである	老後の生活費は、社会保障など公的な援助によってまかなわれるべきである	その他	不明・無回答
スウェーデン	65～74歳(n=684)	17.4	0.6	70.0	5.4	6.6
	75歳以上(n=542)	20.1	1.3	56.6	7.0	14.9
日本	65～74歳(n=674)	35.2	1.9	52.4	8.5	2.1
	75歳以上(n=498)	38.8	1.6	48.4	7.8	3.4

Q42「老後の生活」における生活費について、あなたは、主にどのようにまかなわれるべきだと思いますか。(SA)

7. 近所との関係、友人との関係、情報機器の利用

「同居家族以外に頼れる人」(Q27)について、スウェーデンでは前期高齢者の66.7%、後期高齢者の64.4%、日本では前期高齢者の66.2%、後期高齢者の59.2%が、「別居の家族・親族」と回答しており、傾向は類似している。

両国で差がみられるのは「友人」であり、スウェーデンでは前期高齢者の25.6%、後期高齢者の21.4%、日本では前期高齢者の15.7%、後期高齢者の15.1%というように、日本では「友人」を頼る人がスウェーデンに比べて少ない(図表7-1)。

図表7-1 同居家族以外に頼れる人

		(%)					
		別居の家族・親族	友人	近所の人	その他	頼れる人はいない	不明・無回答
スウェーデン	65～74歳(n=684)	66.7	25.6	19.4	5.6	19.3	1.2
	75歳以上(n=542)	64.4	21.4	21.4	9.8	13.3	3.7
日本	65～74歳(n=674)	66.2	15.7	14.1	7.9	16.6	2.2
	75歳以上(n=498)	59.2	15.1	19.7	12.4	15.7	3.8

Q27 あなたは、病気のとことや、一人ではできない日常生活に必要な作業(電球の交換や庭の手入れなど)が必要なとき、同居の家族以外に頼れる人がありますか。(MA)

図表7-1に関連して、「相談し合ったり、世話をし合う親しい友人の有無」(Q29)についての回答をみる。

日本では、前期高齢者と後期高齢者は、ともに約3割が「いずれもない」(前期高齢者30.3%、後期高齢者30.7%)と回答しており、親しい友人がいない高齢者はスウェーデンの高齢者の約3倍である。つまり、日本では、頼れるどころか、親しい友人がいない高齢者が多いようである。また、日本の高齢者では、親しい友人は「同性」であることが多く、前期高齢者の43.9%、後期高齢者の41.6%であるが、スウェーデンでは「同性・異性の両方」の友人がいる人が、前期高齢者の47.4%、後期高齢者の46.5%であった(図表7-2)。

他国と比べても、日本では親しい友人のいない高齢者の割合が約3割で多く、アメリカ、ドイツ、スウェーデンでは、その割合は1割程度である。また、時系列でも、日本では、この数値はやや増加傾向にある。第8回調査(2015年)では前期高齢者の21.7%、後期高齢者の35.0%であった。

図表7-2 相談し合ったり、世話をし合う親しい友人の有無

		(%)						
		同性の友人がいる	異性の友人がいる	同性・異性の両方の友人がいる	いずれもない	わからない	不明・無回答	友人がいる(再掲)
スウェーデン	65～74歳(n=684)	31.9	2.6	47.4	9.4	6.9	1.9	81.9
	75歳以上(n=542)	25.6	3.7	46.5	10.9	9.4	3.9	75.8
日本	65～74歳(n=674)	43.9	1.5	13.8	30.3	8.5	2.1	59.2
	75歳以上(n=498)	41.6	1.4	12.7	30.7	9.8	3.8	55.6

Q29 あなたは、家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人がありますか。(SA)

「近所付き合いの程度」(Q28)については、スウェーデンでは「外で立ち話をする程度」という回答が、前期高齢者の90.9%、後期高齢者の84.7%と最も多く、続いて、前期高齢者では「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(27.9%)、「お茶や食事を一緒にする」(25.7%)、後期高齢者では「お茶や食事」(25.8%)、「相談ごとをする」(23.8%)であった。

日本でも、最も多い回答は「外でちょっと立ち話をする程度」で、前期高齢者の69.3%、後期高齢者の58.4%であったが、続いて多いのは、「物をあげたりもらったりする」で、前期高齢者の50.3%、後期高齢者の48.4%であった。この傾向は、調査国のなかでも日本の高齢者にみられる大きな特徴であり、第8回調査(2015年)でも約5割の高齢者が回答している。一方、他の3カ国では1~2割程度の回答である。

日本の高齢者にとって近所の人々は、相談する、助け合う対象というよりは、気を遣う対象となっていることが推測される。また、今回の調査でどの国も近所付き合いの程度の数値が若干下がっているのは、新型コロナ感染拡大の影響を反映しているのではないだろうか(図表7-3)。

図表7-3 近所付き合いの程度

(%)

		お茶や食事を一緒にする	趣味をともにする	相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	病気の時に助け合う	物をあげたりもらったりする	外でちょっと立ち話をする程度	その他	不明・無回答
スウェーデン	65~74歳(n=684)	25.7	6.4	27.9	1.0	9.1	17.1	90.9	4.4	1.8
	75歳以上(n=542)	25.8	4.8	23.8	1.7	7.6	10.5	84.7	8.1	3.0
日本	65~74歳(n=674)	13.8	8.9	18.7	4.5	4.3	50.3	69.3	8.5	1.8
	75歳以上(n=498)	17.5	16.9	24.3	8.2	7.6	48.4	58.4	11.2	2.6

Q28 近所の人とは、どのようなお付き合いをなさっていますか。(MA)

「情報機器の利用」(Q34)について、スウェーデンと日本では、特に後期高齢者の動向に大きな違いがみられる。

情報機器は「いずれも使わない」という回答は、スウェーデンの前期高齢者が1.5%、後期高齢者が4.2%、日本では前期高齢者が8.3%、後期高齢者が23.1%であり、日本の後期高齢者の4人に1人は、情報機器を利用していないという結果であった。

スウェーデンと日本を比較すると、「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる」以外は、きわめて大きな差が明らかとなった。

「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」と「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」では、スウェーデンの高齢者では、日本の高齢者の2倍以上の利用がみられる。さらに高度な利用として、スウェーデンでは前期高齢者の60.2%、後期高齢者でも35.8%が「SNS」を利用しているが、日本では前期高齢者の14.8%、後期高齢者の5.0%である。また、「ネットバンキングや金融取引」でも、スウェーデンでは前期高齢者の80.1%、後期高齢者の55.5%がこれを利用し、日本では前期高齢者でもわずか8.3%、後期高齢者では4.6%と、ほとんど利用されていない。「国や行政の手続き」についても、スウェーデンでは前期高齢者(39.8%)の約4割、後期高齢者(20.5%)の2割がインターネットを利用しているが、日本では前期高齢者(7.4%)でも1割に満たず、後期高齢者(3.4%)ではほとんど利用がない(図表7-4)。

2010年代に、スウェーデン国立障がい研究所(Hjälpmiddelsinstitutet)が参加庁(Myndigheten för delaktighet)に再編され、高齢者、障がい者が情報機器を利用して自立生活を継続するためのウェルフェア・テクノロジーの調査研究や政策提言を行っている。医療や介護でのテクノロジーの積極的な活用を進めるために、高齢者や障がいのある人たちのITリテラシーの向上を目指している。スウェーデンの後期高齢者のITリテラシーは、高いことがうかがえる。しかし、このことはスウェーデンだけにみられる特徴ではなく、日本に比べると、アメリカもドイツも高齢者の情報機器の利用率は高い。また、高齢者が自宅にいながら金銭管理を行えることが重要と考え、高齢者

に適切な情報提供や必要な教育を提供しているが、このような政策が、他国に比べてスウェーデンにおいて、「ネットバンキングや金融取引」でICTを利用する高齢者が突出して多いことにつながっていると推測される。

図表7-4 情報機器の利用

(%)

		ファックスで家族・友人などと連絡をとる	パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる ※1	携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる(携帯電話のメールを含む。) ※2	インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする ※3	SNS (Facebook, Twitter, Line, Instagramなど)を利用する ※4	ホームページやブログへの書き込みまたは開設・更新をする ※5	ネットバンキングや金融取引(証券・保険取引など)をする ※6	国や行政の手続きをインターネットで行う(電子政府・電子自治体)
スウェーデン	65～74歳 (n=684)	3.5	54.8	90.8	76.8	60.2	14.5	80.1	39.8
	75歳以上(n=542)	7.2	41.0	84.7	48.7	35.8	11.4	55.5	20.5
日本	65～74歳(n=674)	8.5	16.9	83.2	37.8	14.8	2.4	8.3	7.4
	75歳以上(n=498)	10.0	11.0	65.5	15.5	5.0	1.2	4.6	3.4

※続き

(%)

		いずれも使わない	不明・無回答	※1～3の使い方をする(再掲)	※4～6の使い方をする(再掲)
スウェーデン	65～74歳 (n=684)	1.5	1.6	95.6	86.5
	75歳以上(n=542)	4.2	4.4	88.4	61.1
日本	65～74歳(n=674)	8.3	4.3	86.8	20.9
	75歳以上(n=498)	23.1	7.8	67.7	9.2

Q34 あなたは、情報機器を使って、どのようなことをされますか。あてはまるものをすべてあげてください。(MA)

8. 生きがい、生活への満足感、政策への期待

「生きがい(喜びや楽しみ)」(Q36)について、対象国の調査結果を平均値(最低値1ポイント、最高値5ポイント)で見ると、スウェーデンの前期高齢者4.4ポイント、後期高齢者4.1ポイント、続いてアメリカの前期高齢者と後期高齢者がともに4.3ポイント、日本の前期高齢者と後期高齢者がともに3.8ポイント、最も低いのがドイツで、前期高齢者と後期高齢者がともに3.7ポイントであった。また、スウェーデンでは前期高齢者と後期高齢者で0.3ポイントの違いがあるが、他の国では前期高齢者と後期高齢者の間で大きな差はみられない(図表8-1)。

今回の調査は各国で調査方法が異なっており、新型コロナウイルスの感染拡大の状況や拡大防止策の程度も異なるため、単純に各国間の比較はできない。

図表8-1 生きがい(喜びや楽しみ)

(%)

	スウェーデン(n=1226)		日本(n=1172)		アメリカ(n=817)		ドイツ(n=775)	
	65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上
感じている	85.8	75.6	69.0	66.7	84.7	82.8	55.2	55.8
感じていない	6.0	9.4	12.3	11.6	7.1	9.8	10.9	14.1
平均値	4.4	4.1	3.8	3.8	4.3	4.3	3.7	3.7
標準偏差	0.9	1.0	1.0	1.0	0.9	1.1	1.0	1.0

Q36 あなたは、現在、どの程度生きがい(喜びや楽しみ)を感じていますか。(SA)

(「感じている」は「大変感じている」「多少感じている」の合計、「感じていない」は「あまり感じていない」「まったく感じていない」の合計) 数値は「不明・無回答」を除く(=合計値は100になるとは限らない)。

それでは、各国の高齢者はどのような時に生きていることの喜び、楽しみを感じているのだろうか（Q37）。スウェーデン、ドイツでは、前期高齢者、後期高齢者ともに「子供や孫など家族との団らんの時」が1位であった。日本の後期高齢者では「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」が1位であった。アメリカの高齢者では前期高齢者、後期高齢者ともに「他人から感謝された時」が1位であった（図表8-2）。

図表8-2 生きがいを感じる時

		スウェーデン(n=1226)		日本(n=1172)		アメリカ(n=817)		ドイツ(n=775)	
		65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上
1位	子供や孫など家族との団らんの時 (80.7)	子供や孫など家族との団らんの時 (73.8)	子供や孫など家族との団らんの時 (58.6)	テレビを見たり、ラジオを聞いている時 (55.6)	他人から感謝された時 (84.2)	他人から感謝された時 (79.2)	子供や孫など家族との団らんの時 (69.5)	子供や孫など家族との団らんの時 (74.6)	
2位	友人や知人と食事、雑談している時 (71.2)	テレビを見たり、ラジオを聞いている時 (61.6)	おいしい物を食べている時 (53.4)	子供や孫など家族との団らんの時 (52.0)	友人や知人と食事、雑談している時 (82.9)	友人や知人と食事、雑談している時 (78.4)	友人や知人と食事、雑談している時 (64.9)	友人や知人と食事、雑談している時 (58.8)	
3位	夫婦団らんの時 (67.5)	友人や知人と食事、雑談している時 (59.6)	友人や知人と食事、雑談している時 (48.8)	おいしい物を食べている時 (51.0)	趣味に熱中している時 (64.1)	子供や孫など家族との団らんの時 (77.8)	おいしい物を食べている時 (61.5)	おいしい物を食べている時 (58.8)	

Q37 あなたが生きがい（生きていることの喜びや楽しみを実感すること）を感じるのとはどのような時ですか。(MA)

「現在の生活の満足度」（Q38）について、対象国の調査結果を平均値（最低値1ポイント、最高値4ポイント）でみると、最も高い国はアメリカの前期高齢者と後期高齢者がともに3.7ポイント、続いてスウェーデンの前期高齢者3.6ポイント、後期高齢者3.4ポイント、さらに続いてドイツで前期高齢者と後期高齢者がともに3.4ポイントであり、最も低いのが日本の前期高齢者3.0ポイントと後期高齢者3.1ポイントであった。また、スウェーデンでは「生きがい」と同様に、前期高齢者と後期高齢者で0.2ポイントの違いがみられる（図表8-3）。

今回の調査は各国で調査方法が異なっており、新型コロナの感染拡大の状況や拡大防止策の程度も異なるため、単純に各国間の比較はできない。

図表8-3 現在の生活の満足度

		スウェーデン(n=1226)		日本(n=1172)		アメリカ(n=817)		ドイツ(n=775)	
		65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上	65～74歳	75歳以上
満足している		91.7	91.5	81.3	83.3	94.1	95.0	92.7	92.3
不満である		4.7	4.8	16.8	13.7	5.7	4.2	7.0	7.7
平均値		3.6	3.4	3.0	3.1	3.7	3.7	3.4	3.4
標準偏差		0.6	0.6	0.7	0.7	0.6	0.6	0.7	0.7

Q38 総合的にみて、あなたは現在の生活に満足していますか。(SA)

（満足は「満足している」「まあ満足している」の合計、不満は「やや不満である」「不満である」の合計）

数値は「不明・無回答」を除く（＝合計値は100になるとは限らない）。

「政府の政策全般における高齢者や若い世代に対する対応」（Q39）については、スウェーデンの高齢者は69.3%が「高齢者をもっと重視すべき」と回答し、「若い世代をもっと重視すべき」という回答はわずか5.5%であった。一方、日本の高齢者では、「高齢者をもっと重視すべき」（29.9%）と「若い世代をもっと重視すべき」（29.5%）が、ほぼ同じ割合であった（図表8-4）。

図表8-4 政府の政策全般における高齢者や若い世代に対する対応(65歳以上)

		高齢者をもっと重視すべき		現状のままでよい	若い世代をもっと重視すべき	わからない	不明・無回答
スウェーデン(n=1226)		69.3	5.6	5.5	13.9	5.5	
日本(n=1172)		29.9	19.5	29.5	18.3	2.8	

Q39 今後、政府の政策全般において、高齢者や若い世代に対する対応をどのようにしていくべきだと考えますか。(SA)

図表 8-5 をみると、スウェーデンの高齢者は、日本の高齢者に比べて、国や自治体の政策に対する期待が大きいことがわかる (Q40)。

スウェーデンの高齢者が最も大切だと思う政策は「医療サービス」(72.4%)で、次いで「公的な年金制度」(71.6%)、「介護や福祉サービス」(69.9%)、「高齢者向けの住宅」(65.8%)と続く。日本の高齢者は、「介護や福祉サービス」(61.4%)、「公的な年金制度」(58.7%)、「医療サービス」(58.2%)と続く。高齢者が大切だと考える政策は社会保障制度が中心であり、この点は両国で似ているが、日本の高齢者に比べて、スウェーデンの高齢者は政策に対する関心が高く、また多岐にわたる政策に関心を持っており、日本の高齢者よりも高い数値を示している。

例えば、「ボランティア活動のための場の確保」や「学習のための場の確保」は、日本での高齢者では1割未満の人しか大切だと思っていないが、スウェーデンでは前者は38.2%、後者は24.0%という割合になっている。また、「事故や犯罪防止」では、スウェーデン61.3%、日本24.3%、「高齢者の人権について、一般市民の理解の促進」ではスウェーデン41.4%、日本14.8%というように、スウェーデンの高齢者は年金・医療・介護という社会保障だけでなく、高齢者の日常生活の広範囲にかかわることについて、公的な政策や支援が大切だと考えている。

図表8-5 大切だと思う高齢者に対する政策や支援(65歳以上)

	働く場の確保	公的な年金制度	老後のための個人的な財産形成(財形、個人年金等)の支援	医療サービス	介護や福祉サービス	ボランティア活動のための場の確保	学習のための場の確保
スウェーデン(n=1226)	42.2	71.6	36.7	72.4	69.9	38.2	24.0
日本(n=1172)	26.4	58.7	18.3	58.2	61.4	8.1	9.3

※続き

	高齢者向けの住宅	高齢者に配慮した街づくり(交通機関、道路等の整備)	事故や犯罪防止(財産目当ての犯罪、交通事故等)	高齢者の人権について一般市民の理解の促進	その他	不明・無回答	延回答数
スウェーデン(n=1226)	65.8	42.5	61.3	41.4	3.8	4.8	574.6
日本(n=1172)	20.5	35.7	24.3	14.8	2.6	3.2	341.6

Q40 あなたが大切だと思う、高齢者に対する政策や支援はどれですか。(MA)

参考文献

- 斉藤弥生(2014)『スウェーデンにみる高齢者介護の供給と編成』大阪大学出版会
 斉藤弥生(2016)「第3章 スウェーデンの高齢者環境」岡澤憲英・斉藤弥生(2016)『スウェーデン・モデルラグローバリゼーション・揺らぎ・挑戦』彩流社
 斉藤弥生(2018)「第9章 自立志向の介護と支援技術の展開」岡澤憲英監修(2015)『日本・スウェーデン交流150年:足跡と今、そしてこれから』彩流社
 斉藤弥生(2019)『新世界の社会福祉—北欧(スウェーデン/デンマーク/ノルウェー・フィンランド)』旬報社
 斉藤弥生・石黒暢編(2018)『市場化のなかの北欧諸国と日本の介護—その変容と多様性』大阪大学出版会

(完)